

(1) 解答:③

【解説】

- 文脈の把握: Aが「疲れているようだが、どうしたのか」と尋ね、Bが「宿題で徹夜した」と答えている。
- 空所の後: Bが「分かっているけれど、日中は他にやることがあるんだ」と返答している。
- 選択肢の検討: Bの「I know, but... (分かっているけど……)」という反応から、AはBの行動に対して忠告や批判をしたことが推測できる。
- ①「そんなに遅くなかった」: 文脈に合わない。
- ②「やることがたくさんあったのか？」: Bの返答と噛み合わない。
- ③「もっと計画的に物事を進めるべきだ」: これに対しBが「分かっているけど(日中が忙しくてできない)」と返しており、最も自然である。
- ④「全部終わらせることができたか？」: Bの返答と繋がらない。

(2) 解答:②

【解説】

- 文脈の把握: Aが「散歩に行こう」と誘い、Bが「どこへ行けるか」と場所を尋ねている。
- 空所の後: Bが「そうだね、新鮮な空気が吸えるね(get some fresh air)」と同意している。
- 選択肢の検討: 「新鮮な空気が吸える場所」というBのコメントに合う場所を提案している選択肢を選ぶ。
- ①「(行くことが)できるね」: 場所の提案になっていない。
- ②「山へ登ろう」: 新鮮な空気を吸うという文脈に最も適している。
- ③「図書館へ行くのはどう？」: 屋内なので「新鮮な空気」とは結びつきにくい。
- ④「ジョンのアパートへ行こう」: 同様に屋内のため不自然。

(3) 解答:①

【解説】

- 文脈の把握: Aがコーヒーの好みを尋ねている。
- 空所の後: Aが「本当に？ 私には強すぎる(too strong)」と言い、Bが「私は強く、かつ甘くない(not sweet, either)のが好きなんだ」と答えている。
- 選択肢の検討: Bの「強く、甘くない」という好みを表す表現を探す。

- ・①「ブラックで、砂糖なしで」: Bの好みに合致する。
- ・②「欲しくない」: 注文自体を断っており、後の会話と矛盾する。
- ・③「ブラックで、砂糖たっぷりで」「甘くない」という後の発言と矛盾する。
- ・④「ミルクたっぷりで、砂糖なしで」: ミルクを入れると「strong」という表現とは逆の方向になる。

(4) 解答: ④

【解説】

- ・文脈の把握: Aが「誰がゴミを出すか」と聞き、Bが「自分がやる」と言う。Aは「でも前回も君がやったじゃないか(悪いからいいよ)」と遠慮している。
- ・空所の後: Bが何か理由を述べて、自分がやることを正当化する場面。
- ・選択肢の検討:
- ・①「忙しすぎる」: 自分がやると言ったことと矛盾する。
- ・②「それは不可能だ」: 意味が通じない。
- ・③「君は覚えていない」: 文脈に合わない。
- ・④「どのみち外出するから」: 外出のついでだから手間ではない、という理由になり、Aの遠慮に対する返答として最も自然。

(5) 解答: ④

【解説】

- ・文脈の把握: 空港のチェックインカウンターでの会話。Aが「預ける荷物(check in)は何個か」と聞き、Bが「このスーツケースだけだ」と答える。
- ・空所の後: Bが「Yes, I did.(はい、しました)」と答えている。
- ・選択肢の検討: 「did」で答えられる、過去形のYes/No疑問文で、かつ空港でよく聞かれる質問を探す。
- ・①「それはあなたのものか？」: 答えは「Yes, it is.」になるはず。
- ・②「重さはどれくらいか？」: 具体的な数値を答える質問。
- ・③「スーツケースを持っていたか？」: 今までに目の前にあるので不自然。
- ・④「自分でパッキング(荷造り)したか？」: 保安上の確認として定番の質問であり、「Yes, I did.」という答えとも一致する。

(1)

A: 疲れているようだが、何があったのだ？

B: 宿題をしていて一晩中起きていた（徹夜した）のだ。

A: もっと計画的に物事を進めるべきだ。

B: 分かっているが、日中は他にやることがあるのだ。

(2)

A: 散歩に行こう。

B: それはいい考えだ。どこへ行けるだろうか？

A: 山へ登ろう。

B: そうだね、新鮮な空気が吸えるな。

(3)

A: コーヒーの好みは（どのようにして飲むのが良いか）？

B: ブラックで、砂糖なしで頼む。

A: 本当か？ 私には強（濃）すぎる。

B: 私は強いのが好きなのだ。それに、甘くない方がいい。

(4)

A: 誰がゴミを出しに行くのだ？

B: 私がやろう。

A: しかし、前回も君がやったではないか。

B: どのみち外出するから（構わない）。

(5)

A: 荷物をいくつ預けたいか？

B: このスーツケースだけだ。

A: 自分で荷造りをしたか？

B: はい、した。

(1) よくあることだが、エマは家にいなかった。

解答: ⑤ (is)

【完成文】

Emma was not home, as ○ is often the case with her.

【解説】

「(人)にはよくあることだが」という慣用表現 "as is often the case with ~" を用いる。

文の構成は以下の通りとなる。

1. home (④) : "not home" で「家にいない」

2. , (カンマ)

3. as (①)

4. is (⑤) : ○の箇所(26番)

5. often (⑥)

6. the (⑦)

7. case (③)

8. with (⑧)

as は擬似関係代名詞として機能しており、文全体を先行詞としている。

(2) 私は彼に家賃を前払いしてくれと言った。

解答: ⑧ (pay)

【完成文】

I asked him to ○ pay his rent in advance.

【解説】

「Aに～するように頼む(言う)」という "ask A to do" の構文と、「前もって」という熟語 "in advance" を組み合わせる。

1. asked (③)

2. him (⑦)

3. to (④)
4. pay (⑧) : ○の箇所(27番)
5. his (①)
6. rent (⑥)
7. in (②)
8. advance (⑤)

「家賃」は his rent とすることで、選択肢の語をすべて過不足なく使用できる。

(3) 彼はとても運がいいのでうらやましい。

解答: ⑥ (man)

【完成文】

He is so lucky a ○ man that I envy him.

【解説】

「非常に～なので…だ」という "so ~ that …" 構文だが、形容詞 lucky が名詞 man を修飾する場合、語順が "so + 形容詞 + a + 名詞" となる点に注意が必要だ。

1. so (⑦)
2. lucky (⑤)
3. a (①)
4. man (⑥) : ○の箇所(28番)
5. that (⑧)
6. I (④)
7. envy (②)
8. him (③)

通常の such a lucky man と同じ意味だが、so を使う場合はこの語順になる。

(4) 彼女はドラマに何本か主演したが、どれも1シーズンしか続かなかった。

解答: ③ (which)

【完成文】

She starred in a series of dramas, none of ○ which lasted more than one season.

【解説】

カンマの後に「それらのどれも～ない」という意味を続けるため、関係代名詞 which を用いた "none of which" の形を作る。

1. none (⑥)
2. of (⑤)
3. which (③) : ○の箇所(29番)
4. lasted (⑧) : 「続く」という動詞
5. more (④)
6. than (⑦) : more than で「～より多い(～以上)」
7. one (①)
8. season (②)

先行詞は a series of dramas である。

(5) タバコはご遠慮いただけないとありがたいのですが。

解答: ⑧ (you)

【完成文】

I would prefer it if ○ you did not smoke.

【解説】

「～していただけないとありがたい(～のほうが好ましい)」という丁寧な依頼の表現 "I would prefer it if + 主語 + 動詞の過去形" を用いる。

1. I (②)
2. would (⑦)
3. prefer (⑥)
4. it (④) : 形式目的語の it
5. if (③)
6. you (⑧) : ○の箇所(30番)

7. did (①)

8. not (⑤)

if 節の中を過去形(仮定法過去)にすることで、直接的な表現を避け、控えめで丁寧なニュアンスになる。